



本 営 第 7 3 5 号
平成 26 年 10 月 22 日

運 輸 審 議 会

会 長 上 野 文 雄 殿

東京都渋谷区代々木二丁目2番2号

東日本旅客鉄道株式会社

代表取締役社長 富田 哲郎



公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第 35 条の規定により、下記のとおり公述申込みをいたします。

記

1 事案番号、事案の種類及び事案の申請者

平 26 第 3001 号

鉄道の特別急行料金の上限設定の認可

東日本旅客鉄道株式会社

2 公述しようとする者の氏名、住所、職名及び年令

東京都渋谷区代々木二丁目2番2号

東日本旅客鉄道株式会社

代表取締役社長

富 田 哲 郎

63才

常務取締役鉄道事業本部副本部長

原 口 肇

58才

執行役員営業部長

赤 石 良 治

52才

営業部担当部長

小 布 施 由 武

58才

3 事案に対する賛否

申請者

4 連絡先電話番号

東日本旅客鉄道株式会社鉄道事業本部営業部



鉄道の特急料金の上限定の認可に係る

公 述 書

公 述 人 東日本旅客鉄道株式会社

代表取締役社長 富田 哲郎

他

私は東日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長富田哲郎でございます。

本日は、弊社が平成26年10月3日に申請いたしました鉄道事業の旅客の特別急行料金の上限設定認可申請に関しまして公聴会を開催され、弊社の申請の趣旨をご聴取いただけますことを厚く御礼申し上げます。

ただ今から、弊社が今回申請いたしました料金の認可申請につきまして、その理由と内容をご説明申し上げたいと存じます。

1. 申請理由の概要

(1) 北陸新幹線金沢開業

弊社の鉄道事業の営業エリアは、主として関東及び東北地方の1都16県にわたり、現在、駅数は1,678駅、営業キロは在来線が6,339.2km、新幹線が1,134.7kmで、総合計は7,473.9kmとなっております。このたびの北陸新幹線金沢開業に伴い、新幹線の営業キロとしては新たに長野～上越妙高間の59.5kmが加わることとなります。

北陸新幹線は、昭和47年に全国新幹線鉄道整備法（昭和45年法律第71号）により基本計画が決定され、昭和62年4月の国鉄分割民営化に際し、東京～上越妙高間は弊社が、上越妙高～金沢（大阪）間はJR西日本が営業主体として運輸大臣から指名を受けたものであります。

第18回冬季オリンピック長野大会開催を控えた平成9年10月1日に整備新幹線として初めて北陸新幹線高崎～長野間が開業し、弊社が営業主体として運行を行ってまいりました。現在、「あさま」を東京～長野間に1日27往復、東京～軽井沢間に1往復運行しております。

このたび、平成27年3月14日に長野～金沢間が開業することにより、弊社とJR西日本による東京～金沢間での新幹線の相互直通運転が開始されることになりました。

東京～金沢間には速達タイプの「かがやき」を1日10往復、停車タイプ

の「はくたか」を14往復、この他に、長野～金沢間の「はくたか」を1往復、富山～金沢間の「つるぎ」を18往復、そして、東京～長野間には「あさま」を16往復運行することとしております。また、旅行シーズンなど多くのお客さまのご利用が見込まれる期間には、臨時列車の運転についても予定をしております。

新幹線による高速化により、最速達列車で東京～金沢間は2時間28分、東京～富山間は2時間8分で結ばれることになり、現在の上越新幹線越後湯沢経由に比べて1時間以上の大幅な時間短縮となります。また、乗り換えがなくなることでシームレスにご移動いただけるようになります。

さらに、新規に開業する長野～金沢間においてはE7系及びW7系という最新型車両、E7系は既に東京～長野間で運行を開始しておりますが、JR東日本とJR西日本が培ってきた最新技術と日本の伝統を融合させた車両を投入し、ご利用くださるお客さまに安心・快適なサービスのご提供をまいります。

(2) 開業の効果

先ほど述べましたとおり、北陸新幹線金沢開業により、東京から金沢までの所要時間は約2時間30分となり、首都圏と北陸との間の旅客流動を担う大きな柱になります。同じく旅客流動を担う航空機とは競争関係にありますが、パイを奪い合うのではなく、お互いに切磋琢磨していきながら、首都圏と北陸エリアとの間の流動全体のパイを拡大してまいりたいと考えております。

具体的には、目的地までの時間短縮効果を活かして、地元の皆様方やJR西日本と連携しながら、北陸エリアのみならず、新潟・長野・岐阜各県を含めた広域観光ルートの整備を進めると共に、各地の魅力をPRしてまいりたいと考えております。

さらに、高山・白川郷など外国からのお客さまにも人気の高い観光地と北陸エリアをつなぐ新しいルートを整備・PRし、東京～京都間をつなぐ新し

いルートとして海外に発信していくことなどを通じて、インバウンド需要の拡大にも貢献できるものと考えております。

弊社としましては、これらを通じて北陸新幹線沿線地域の活性化、ひいては日本経済の活性化に寄与してまいりたいと考えております。

なお、弊社では、北陸新幹線金沢開業を見据えて、国内では初めて弊社エリア外に「北陸営業センター」を平成25年4月に開設し、地元の皆様と様々な情報交換をさせていただいているところです。引き続き、相互の連携を深めながら、地域との共存を図ってまいりたいと考えております。

(3) 北陸新幹線の収支見通し

弊社区間の収支の見通しにつきましてご説明申し上げます。

需要（利用人員）想定につきましては、現在、上越新幹線越後湯沢駅で乗り換え、特急「はくたか」に乗り継いで首都圏と北陸エリア間を移動されるお客さまが1日当たり約8,000人いらっしゃいます。このお客さまの全てが北陸新幹線に転移されることを前提にしつつ、他の交通機関からの一定程度の転移及び過去の他路線の開業時の実績を基に想定した誘発効果を見込んでおります。

そのように想定した需要（利用人員）に、運賃及び今回申請いたしました新幹線特急料金を乗じて収入を想定しております。

ただし、転移や誘発を期待しそれを見込んだ収入としているものの、これらは景気動向や社会情勢等の外的環境に影響を受けやすいものであり、現在の北陸新幹線高崎～長野間の実勢値は開業前の予測値を下回るなど多分に不透明であります。

費用につきましては、人件費などの営業費用、減価償却費、貸付料等を適正に計上しております。最新の販売機器やシステムを導入してコスト削減に努めると共に、効率的な業務運営を行ってまいり所存ですが、現在も東京～長野間で運行しているE2系の最新型車両であるE7系への置き換えやシステム改修等に費用を必要といたします。

なお、貸付料につきましては現時点において想定される額を計上しておりますが、整備新幹線におきましては、開業により営業主体に生じる受益を限度として設定される貸付料を30年間定額で支払う仕組みでありますので、今回の申請に基づく料金の設定により収支が均衡することを申し添えさせていただきます。

以上、収支の状況について申し上げましたが、現時点では認可申請書の添付資料に記載のとおり厳しい収支状況でありますことを何卒ご理解賜りたく存じます。

2. 料金の設定申請の内容

次に、今回申請いたしました新幹線特急料金の設定につきまして、その概要をご説明申し上げます。

北陸新幹線は、路線としては1本ではあるものの、国鉄分割民営化の措置により、東京～上越妙高間は弊社が営業主体として、上越妙高～金沢間はJR西日本が営業主体として、指定された2社により共同運営される路線形態となります。

弊社が申請を行った新幹線特急料金のうち、弊社完結区間であり、長野駅から上越妙高駅発着の区間に設定する新幹線特急料金につきましては、弊社の新幹線特急料金として共通に適用している東北・上越新幹線及び北陸新幹線の長野までの既開業区間と同じレベルで設定した新幹線特急料金を申請しております。

また、弊社区間とJR西日本区間とをまたがる区間の新幹線特急料金につきましては、駅間の営業キロに応じて東北・上越新幹線で適用している料金レベルをベースに、将来にわたり両社が安全かつ利便性・快適性の高い新幹線輸送サービスを提供するために必要な費用を考慮し、それを踏まえて設定した新幹線特急料金を申請したものであります。

料金設定に際しましては、それぞれの会社の区間における営業主体毎の収

支採算性を踏まえて設定する必要があります。北陸新幹線は、弊社が単独で運行や管理を行っている東北新幹線や上越新幹線と異なり、2社により共同運行される路線であることから、運行管理に必要な指令所の新設、新幹線予備編成の配置など両社それぞれに費用が生じるほか、日々の運行に要する費用、車両や設備等のメンテナンスなどに要する費用につきましても、両社それぞれに発生いたしますので、弊社区間とJR西日本区間とをまたがる区間の新幹線特急料金につきましても、それらを賄うために必要な料金レベルとして申請をさせていただいております。

また、今回申請させていただく新幹線特急料金は、新幹線のモビリティとしての価値、他の交通機関と比較しての価値なども考慮して設定させていただいたものであり、ご利用のお客さまにご理解いただける料金レベルであると考えております。

3. むすび

このたびの北陸新幹線の金沢開業により、弊社管内における整備新幹線の延伸は、平成9年10月の北陸新幹線高崎～長野間、平成14年12月の東北新幹線盛岡～八戸間、平成22年12月の東北新幹線八戸～新青森間に続き4回目となります。北陸新幹線においても、安全で品質の高い鉄道サービスや地域社会への貢献という使命を果たし続けるため、最大限に取り組んでまいり所存です。そして、北陸新幹線の金沢開業が沿線地域の活性化、さらには日本全体の活性化に寄与できるものと確信いたしております。

そのためにも、将来にわたり安定的な経営ができることが必須の条件であり、その収入の基本となります新幹線特急料金の設定につきましても、何卒、ご審議を賜り、お認めくださいますようお願い申し上げます。私の公述を終わらせていただきます。